

漁海況情報

平成20年12月8日 第27号(通巻386号)

山口県水産研究センター 外海研究部 〒759-4106 長門市仙崎2861-3

TEL:0837-26-0711 FAX:0837-26-1042 Mail:a16402@pref.yamaguchi.lg.jp

【お知らせ】この漁海況情報がインターネットのホームページで見られるようになりました。検索ツールで「海鳴りネットワーク」と入力し、「山口県水産情報システム海鳴りネットワーク」のトップページから「漁海況情報」のボタンをクリックするか、以下のアドレスにアクセスしてください。最新情報ならびにバックナンバーがPDFファイルで取得できるようになっています。なお本情報は観測・調査終了後、毎月2~3回、不定期に発行しています。

<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a16500/uminari/uminari-top.html>

【萩 - 見島フェリー観測の表層水温】萩 - 見島フェリー観測による萩沖の12月8日の表層水温は18.87℃で、前年に比べ0.05℃高め、平年に比べ1.97℃高めです。

【魚礁調査情報(見島地先)】12月3日、調査船「第2くろしお」で見島地先の間伐材試験礁と高層魚礁群(山口北地区漁場整備事業:水深約90m)の効果調査を実施しました(次ページ、図1)。

間伐材試験礁での釣獲試験(ズボ釣り、サビキ仕掛け、ジギング、アジ泳がせ釣り2時間)では、メダイ(ダルマ:全長73cm、1尾)、ブリ(ヤズ:全長40~44cm:13尾)のほか、マアジ(全長40~44cm:3尾)、アオハタ(キヨセ:全長40cm、1尾)が漁獲されました。

高層魚礁群での夜間タンポ流し(18:00~19:20に操業、仕掛け長:60m、餌:イカ・サンマ、延べ6鉢)では、メダイ(ダルマ:全長43~66cm、8尾)が漁獲されました。この時間帯にメダイは各魚礁上に長時間浮上、分散し

ていたようで、使用した 6 鉢中 5 鉢で漁獲がありました。

【魚礁位置】 日本測地系で表示しています。

①高層魚礁群

山口北地区漁場整備事業：既設のうち最も高い 30m 魚礁 4 基(図中黒丸)の位置です。周辺に 21m の魚礁(図中白丸)があります。

- 34°44.801'N、131°06.676'E
- 34°44.801'N、131°06.937'E
- 34°44.582'N、131°06.676'E
- 34°44.810'N、131°07.144'E

②間伐材試験礁 (間伐材付き 3 基、間伐材なし 3 基、計 6 基)

- 34°45.048'N、131°07.159'E (間伐材付き)
- 34°45.027'N、131°07.133'E (間伐材付き)
- 34°45.027'N、131°07.185'E (間伐材付き)
- 34°45.051'N、131°07.483'E (間伐材なし)
- 34°45.029'N、131°07.457'E (間伐材なし)
- 34°45.030'N、131°07.510'E (間伐材なし)

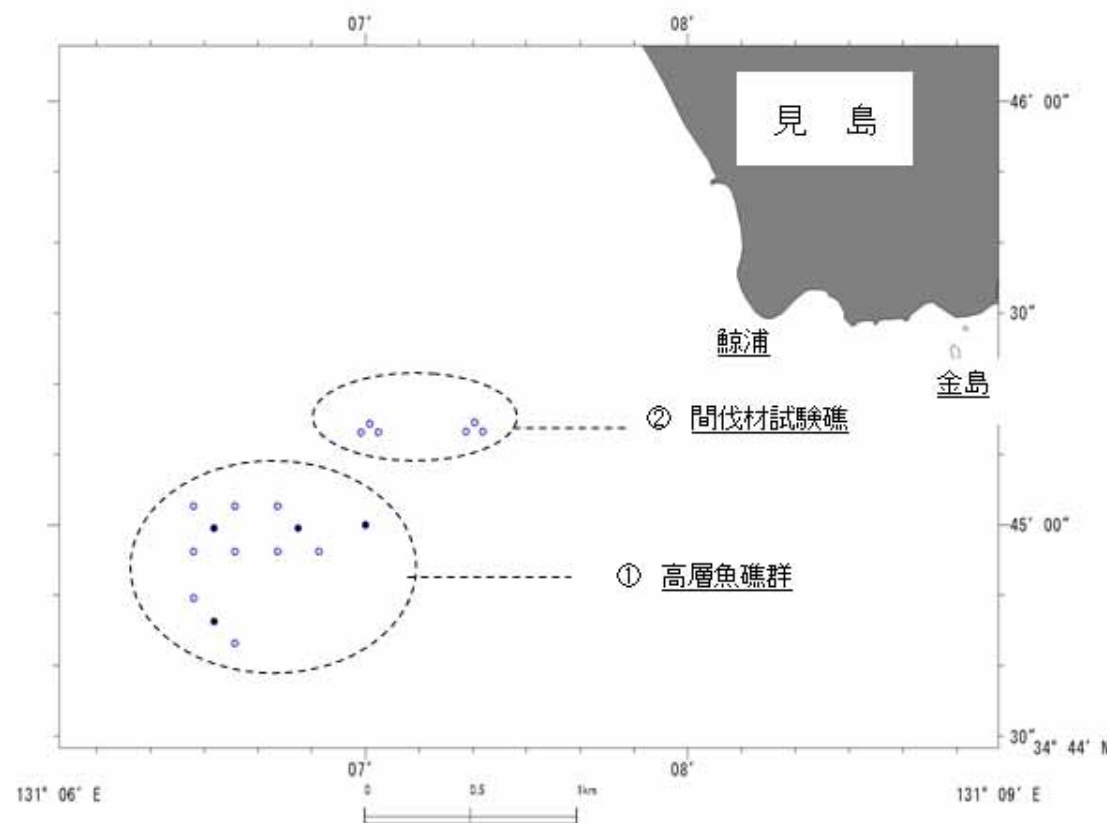


図 1 今回の調査場所

【平成 20 年 山口県版資源評価票 ②】今回は「トラフグ、マダイ、キダイ」の 3 魚種をご紹介します。文中の「漁獲量」とは山口県日本海側漁獲量 (山口農林水産統計年報、日本海区) を示し、グラフはその推移を示しています。

魚種名	資源水準	資源動向	資源評価の概要	H18日本海側漁獲量 (山口農林水産統計最新値)	山口県日本海側漁獲量の推移(山口農林水産統計、日本海区より抜粋)
トラフグ	低位	横ばい	<p>・東シナ海・日本海・瀬戸内海系群の資源量は平成9年に887トンに半減した後、平均887トンで推移し、平成19年は756トンと推定された。現状の漁獲係数は資源管理基準を上回っている。平成11年以降、親魚量に対する加入尾数の変動が大きく、平成18年は際立って低いと推定された。従って、資源水準は低位、資源動向は横ばいと判断された。</p> <p>・下関唐戸魚市場(株)におけるトラフグの取扱量のうち、外海産(東シナ海・黄海・日本海産)は、平成10年以降100トン前後の低い水準で推移している。また内海産(瀬戸内海、豊後水道、伊勢・三河湾産)は、平成9～11年に40～70トン台まで減少し、平成12～15年に100トン以上に増加したが、平成16年以降、再び30～60トン台の低い水準で推移している。</p>	外海産 110トン 内海産 68トン	
マダイ	中位	増加	<p>・日本海西部・東シナ海系群の平成19年の資源量と資源尾数は、共に前年より増加し、昭和61年以降で最高となった。また、再生産成功率(1才の加入尾数/親魚量)は過去20年間で2番目に高い値であった。ただし、より長期的に見ると、平成19年の漁獲量は過去最高であった昭和44年の60%であり、資源量を高位と判断する根拠は得られていない。これらのことから資源水準は中位、資源動向は増加と判断された。</p> <p>・山口県日本海側の漁獲量は、平成2年以降増加傾向にあったが、平成11年以降減少傾向に転じ、1,000トンを割り込んで推移している。資源量はH16年以降増加傾向に転じた。H18年の再生産成功率(1才魚資源尾数/産卵親魚量)は過去20年で最高だったことから、資源水準は中水準で増加傾向と判断された。</p>	620トン	
キダイ	中位	横ばい	<p>・日本海西部における沖合底曳網によるキダイのCPUE(1網あたり漁獲量)は、平成9年まで増加傾向で平成10年以降減少傾向に転じたが、平成14年には再び増加し、最近20年で見ると比較的高い水準にある。一方、以西底曳網では平成8年にCPUEが下がったものの、その後増加傾向にある。またこれ以外の漁業種類での漁獲量は最近20年間では高い水準にあり、増加傾向にある。日本海・東シナ海系群における資源量は、これらを総合的に判断して、資源水準は中位、資源動向は横ばいと判断された。</p> <p>・山口県日本海側の漁獲量は、平成5年に最低の716トンであったが、平成8年以降ほぼ1,000～1,500トンで、比較的安定して推移している。</p>	1,131トン	